

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すばらうとこども発達サポート		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○訪問先施設評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月15日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・医療職(理学療法士、作業療法士、看護師)と保育士を配置し、多職種で支援を行うことでより多角的な視点で評価、具体的な支援を提供することができる。特に、医的ケアを必要とする子どもへの支援について、安心安全な環境作りを園や学校に提案できる。	・各々の職種において専門性を持った対応や提案をする時にはできるだけ専門用語を使わず、一般的な言葉で分かりやすく伝えるように心がけている。具体的な場面を捉えて、共有しやすくし、現在行われている支援について良いところを言語化して継続していただくようにする。	・事後カンファレンスの時間を確保し、情報共有を丁寧に行う。
2	・多機能型事業所であり、対象児は児童発達支援から放課後等デイサービスへ移行する児童も多い。子どもの成長過程における対応の経緯を伝えながら支援を行うことができる。	・複数の事業所を利用している子どもについて、そこでの様子について、保護者の同意を得た上で情報共有し、子どもの状態を総合的に判断するようにしている。	・子ども自身の成長や地域の繋がりについて、情報共有を深める。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・希望があっても、迅速な対応が困難。	・職員が通所事業所と兼務しているため、訪問できる日が限られてしまう。	・事前会議を通して、必要性や目標設定、期間や回数について検討する。
2	・事前のアセスメントや情報共有について、訪問以外の時間が必要。	・事前の準備、支援方法について話し合う時間が少なかったと思われる。訪問記録の作成に時間がかかってしまった。	・訪問前後で出来るだけ早く振り返りをして、支援について課題や必要なことを文書にまとめておく。
3	・間接支援に偏りがちである。	・通所していない子どもについては、どうしても関わり方が消極的になる。考え方を伝えても、具体的にやってみなければ分からないことがある。	・直接支援ができる部分について、方法を事前に検討しておく。現場で子どもと先生方との関係性において、上手くいっている方法があれば、それを尊重する。課題がどこにあるか見直す。